

平山学長 新年あいさつ (2面)

若者と新潟の未来を創る大学へ

韓国 光云大から初の留学生 (7面)

学食「テーブル・フォー・ツー」活動 (5面)

日中友好 日本青年訪中団ツアー参加 (8面)

平成30年度一般入試日程の概要とポイント (7面)

編集部では表紙を飾る写真を募集しています! 投稿方法は nuischannel@nuis.ac.jp までお問い合わせください。

CONTENTS

(2・3面)

湧源・編集後記に代えて
瀬戸准教授 ラオスから友好勲章
オープンカレッジ in こくじょう

nuis projectに学生ボランティア賞

(4・5面)

男子4×100mリレー
北陸選手権で初優勝
フィットネス研究部
国体、ロシア大会出場

代官献上米行列に参加
教員の活動

(6・7面)

福祉・介護・健康フェア出展
企業懇談会に
過去最高311社

e-ネットキャラバンと
光通信を学ぶ教室実施
平成30年度推薦入試

(8面)

学生がNICOに同行調査
伊勢ヶ濱部屋が来学



NUISホームページ
<https://www.nuis.ac.jp>
(スマートフォン対応)



Facebookページ
<https://www.facebook.com/nuis.face>



LINE@
@nuis-line3111
LINEの「友だち追加」から
「ID検索」で登録



Twitter
@nuis_nabbit

経営情報学部スタート!

新年
あいさつ



学長 平山 征夫

学生諸君、教職員、父母の皆さま明けましておめでとうございます。気持ちも新たに年明けを迎えられたことと思います。

昨年は本学にとりまして大きな意義のある年でした。

創立20周年を期に悲願の2学部への移行を達成、定着を図るとともに、さらなる発展を目指して経営情報学部への学部名変更と経営学科の新設を目指して取り組んできましたが、実現することができました。

今回の改正は「国際化と情報化」という時代要請に的確に対応できる人材育成」という建学の目的を達成し、より魅力のある大学になるためのものです。経営学科の新設は、これまでの「情報システムを使いこなせる

ビジネスパーソンの育成」をさらに発展させ「情報システムをマスターしたうえ、経営学全般にも精通しているより幅のあるビジネスパーソンの育成」を目指すものです。この試みは本学の将来展望に関連した重要な挑戦です。

併せて2016年に定めた本学の「中長期計画」の具体的実施内容と方法を検討してきましたが、本年はそれをさらに詰め、できるものから実施に移してゆく年になります。計画の柱であります「若者と新潟の未来を創る大学」を目指して何をするか、新たな大学の魅力をどう高めるかが重要なテーマとなりますが、併せて「地域になくてはならない大学」「一番学生の面倒見の良い大学」を目指した具体的施策についても詰めゆきますので、皆さまもアイデア

若者と新潟の未来を創る

を寄せていただきたくよろしくお願いいたします。特に6つの基本戦略のうち①国際化・情報化に定める人材育成の拠点 ②地域の未来を切り開き地域に貢献する大学 ③多様な活動を通じた新たな機能を発揮する大学づくりなどについては、早期に方向性を打ち出してゆきたいと思っています。

しかし大学を取り巻く環境は、いよいよ「2018年問題」を迎えるほか、教育を巡る政策が大学改革評

価主義の一段の進展、高大接続の入試選抜への影響、新たな高等教育機関としての「専門職大学」の設立(平成31年以降)など、どれを見ても影響必至の事項が目白押しです。特に専門職大学は専門学校の多い本県では、その影響が懸念されます。それだけに本学は建学の理念に基づき、より魅力と特徴のある大学創りに励むことが求められます。そのためにも「中長期計画」を本学の戦略プランとして早期に本格スタートさせることが何より肝心です。

本年3月には21回目の卒業生を送り出し、卒業生は6,000人を超えることとなります。そして4月には25回目の新入生をみずき野に迎えます。本学が地域の「知」の中核的存在として、一層の充実した活動をするのが期待されています。それ

には上記戦略プランを具体化することが重要になります。皆さんからも、そのための具体的実践活動に協力いただきたいと思っています。

私は以前から地域の私大は道路、病院などと同様、地域に必要な「共通社会資本」だと主張しています。

「地域が必要とする人材は地域で育てる」という社会資本としての役割を担っているからです。それにふさわしい大学を目指して、さらなる改革に取り組む所存ですので、協力のほどよろしくお願いいたします。

湧源

編集後記に代えて

入試・広報委員長 安藤 潤

新年あけましておめでとうございます。

現在NHKの朝ドラの主人公は吉本興業を創り上げた吉本せいをモチーフにしている。実は私の実家は吉本興業から歩いて3分。幼稚園は旧なんば花月のすぐそばにあり、帰りはなんば花月の隣にあったお化け屋敷の受付の女性に淡い恋心を抱き、しばし通い詰め。現在のNGK(なんばグランド花月)は地下がゲームセンター、上はボーリング場、最上階はゴルフの打ちっ放し場だった。プールのころは毎週のように開催されるコンペに参加する父につき合わせ、中1のときは彼女とデートなんてこともした。

なんば花月では毎週のようにお笑い番組の公開録画があり、そのときだけは入場料はただになる。そのころマエセツを担当していたのが明石家さんまさんや島田紳助・松本竜介さん。そういえば一度だけ舞台でさんまさんと話をした記憶がある。花月の2階隣に小さなスーパーA&Pがあり、地下へ続く階段の壁には90年代に閉店を迎えるまで20代の明石家さんまさんと小泉今日子さんの色あせたポスターが貼ってあった。

実家の周りは今もにぎやかだが、12月30日ともなれば近所の店は閉まり、玄関には謹賀新年の貼り紙と締め縄が定番で、基本的には年末年始は静かだった。今は法律も改正されて24時間営業する飲食店は当たり前。なんとにぎやかになったことか。そんな正月元旦に顔を合わせるのは祖母が亡くなった大学1年生以来ずっと両親と私の3人だけだ。顔ぶれが変わらないのは家族が健康であることの裏返しではあるが、まさか四半世紀もメンバーが増えないとは誰が想像しただろう。

朝ドラのタイトルは「笑ろてんか」。標準語で言えば「笑ってください」。笑いの街で生まれ育った私だが、母方の祖母が「この子はほんまに笑わん子や」と言うほど生まれたときからあまり笑わなかったらしい。そんな私の委員長職もあと約3か月。大学入試センター試験をはじめまだまだ大仕事が残っているが、大役を果たしたころ私の四十肩は五十肩に変わる。この世に生まれて半世紀を迎える3月末に、果たして私は笑っているだろうか。

「あやべしゅう&ステイブン」英会話の漫才トークは会場を大いに沸かせました



「オープンカレッジ in こくじょう」

本学は、公開講座「文化教養」の本井晴信講師が中心市街地・古町の歴史的地名の由来を教える「新潟古町 地名探求」古町から始める地名「」講座を開講。「英会話」講座の

した。

お笑い、教養で元気を

新潟NAMARAと異色コラボ

新潟中央キャンパスで9月23日、「オープンカレッジ in こくじょう」を開催しました。誕生20周年を迎えた新潟のお笑い集団NAMARAと本学の異色のコラボレーションで地域を元気にしよう」と企画しま

ステイブン・クラタバック講師は、芸人あやべしゅうとコンビを組み「これだけ言えれば生きていける英会話」で掛け合いトークを披露。ハンバーガーショップ店員役でコミカルな劇を演じて笑わせました。

また、2階

コワーキングスペースでは、金子ボボの「カネッコジャンボリ

」や親子で楽しめる「バルーンアート」「けん玉教室」を開催。家族連れで訪れた卒業生も多く、「けん玉教室」は子供より父親がヒートアップするなど楽しんでいました。

(新潟中央キャンパス 企画室 片桐徹)

国際文化学科 瀬戸准教授

ラオスから友好勲章



友好勲章を手にする瀬戸裕之准教授とラオス国立大学ソムシー学長(右)

20年、学術交流に協力 法教育研究センター設立も貢献

本学の国際学科、瀬戸裕之准教授にラオス人民民主共和国から長年の学術貢献に対して友好勲章が授与されました。

瀬戸先生への勲章授与は、1997年からラオスと日本の学術交流に協力したことに共に、2013年から2016年までラオス国立大学で勤務して、ラオス・日本法教育研究センターの設立と運営に大きく貢献したことが評価され今回の受章となりました。

伝達式は8月11日にラオス国立大学内で行われ、同国首相名の勲章がラオス国立大学のソムシー学長から手渡されました。伝達式の様子は、現地のビエンチャン・タイムズ紙に掲載されました。

災害支援 nuis project

ソロプチミスト日本財団 学生ボランティア賞に輝く



南三陸町でカキの殻磨きを手伝うメンバー

我々学生災害ボランティア団体、nuis projectは11月17日、ソロプチミスト日本財団から「学生ボランティア賞」を授与されました。

東日本大震災を契機に、学生だからこそできる復興支援があるに違いないと5年前に結成し、被災地の福島県や宮城県で毎年2、3回、現地のボランティアセンターを通じて、リング農家の草刈りなど農作業の手伝いや漁港ではカキの殻磨きなど、農業や漁業の支援を行ってきました。

私たちは、ほかの学生たちにも被災地の状況を知ってもらい、ボランティア活動に関心をもってもらうことが継続的な復興支援につながっていくと考えています。

受賞を励みに、これからも復興支援活動を行っていききたいと思います。

(nuis

project 前代表
国際文化学科4年

大川竜矢



バーベル挙げに挑む小池優太さん

えひめ国体、ロシア大会

継続は力！ 95kg 挙げる

細い腕を太くしたいと2年半前にフィットネス研究部に入り、先輩方と藤瀬武彦教授の指導を受けてパワーリフティングを続けています。このスポーツは、スクワットとベンチプレス、デッドリフトの3種目で挙げる重量の総計を競う競技で、鍛え

(情報システム学科3年 小池 優太)

パワーリフティングで初めて、第72回愛媛県えひめ国体公開競技パワーリフティング大会(9月9、10日)とロシア・ハバロフスク市で開催された極東スポーツフェスティバル「新世代2017」(9月20、24日)に出場しました。

細い腕を太くしたいと2年半前にフィットネス研究部に入り、先輩方と藤瀬武彦教授の指導を受けてパワーリフティングを続けています。このスポーツは、スクワットとベンチプレス、デッドリフトの3種目で挙げる重量の総計を競う競技で、鍛え

パワーリフティングも奮闘

続けられ持ち上げられる重量が日々増える

陸上競技部・男子400mリレー

北陸選手権で初優勝



初優勝をして、賞状を掲げて喜ぶリレーメンバー

1、2年生メンバー

予選はシーズンベスト

1でしたが、予選ではシーズンベストを出して1位。決勝はバト

陸上競技部は、富山市の富山県総合運動公園陸上競技場で開かれた第61回北陸陸上競技選手権大会(8月26、27日)に出場し、男子4×100mリレーで初優勝を果たしました。

この素晴らしい結果は自分たちの大きな自信となりました。今年の大会でも連覇ができるよう、これからの練習もがんばっていきます。

(情報システム学科2年 斎藤 大介)

- II "Culture and Identity" (座長) "Thinking across Boundaries: The Fluidity of Asia, Africa and Beyond" (SOAS University of London)
- (2017年10月7日) 「中国貴州省におけるミャオ族女性のライフコースの変化：母娘関係に着目して」第4回アジア・中国学術交流会(新潟大学)
- (2017年10月8日) 「ミャオ族の民族衣装：中国農村にいづく手仕事のかたち」国際理解セミナー アジアを知る！(新潟県国際交流協会) (朱鷺メッセ)

藤瀬 武彦(情報システム学科・教授)

- (2017年9月9日) 藤瀬 武彦・他「青年女性における理想体型の数値及び自己体型との関連について」日本体育学会第68回大会(静岡大学静岡キャンパス)

藤田 美幸(情報システム学科・准教授)

- (2017年9月5日) 「ウィンタースポーツイベントの最適マネジメント」全日本ウィンタースポーツ専門学校(全日本ウィンタースポーツ専門学校)

3) 競争的資金獲得研究

伊村 知子(情報システム学科・准教授)

- (2017年7月より継続～2019年3月) 平成30年度科学研究費補助金挑戦的研究(萌芽)「子どもは拡張現実(AR)技術による『本物らしさ』をどのように認識しているのか？」

4) 委員・社会的活動・記事・その他

伊村 知子(情報システム学科・准教授)

- (2017年8月24日) 京大と新潟国際情報大学など、チンパンジーも複数の物体の大きさの「平均」を知覚することを発見 (https://r.nikkei.com/article/DGXLRS454927_U7A820C1000000/) 日本経済新聞

宇田 隆幸(情報システム学科・教授)

- (2016年12月26日より継続～魚沼市国土利用計画の策定まで) 魚沼市国土利用計画審議会委員

- (2017年10月1日より～2019年9月30日) 新潟市水道事業経営審議会委員

内田 亨(情報システム学科・教授)

- (2017年9月30日) 文部科学省 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 NIIGATA COC+ 国際交流WG 第1回新潟国際化デザインコンテストにて内田研究室卒業研究生 油石涼 佐久間優祐 古田有希 保刈陽平 ボール・プリオ(フランス・リヨン経営大学研修生)が「サブカルチャーを通じた新潟の魅力発信～新たな古町～」を発表(クロスバール新潟)

上西園 武良(情報システム学科・教授)

- (2017年10月26日～27日) 燕三条ものづくりメッセでの展示(燕三条地産産業振興センター)

小林 満男(情報システム学科・教授)

- (2017年10月14日) 西川流域子ども環境サミット・総括コメンテーター(西川多目的ホール)
- (2017年11月21日) 新潟市西川図書館協議会・会長(西川学習館)

小林 満男(情報システム学科・教授) 石川 洋(同・准教授) 河原 和好(同・講師) 中田 豊久(同・講師)

- (2017年10月28日) JABEE修了生・卒業生交流会(新潟地区)(新潟国際情報大学・新潟中央キャンパス)

佐藤 泰子(国際文化学科・英語講師)

- (2017年10月1日) 新潟日報社発行 月刊「キャレル」10月号 Vol282 新潟県高齢者大学「まちかどふれ愛英会話コース」の様子(96-97頁)

藤田 美幸(情報システム学科・准教授)

- (2017年10月5日) 新潟コンベンション協会主催：第5回地域内連携もてなし推進事業検討ワーキング(新潟国際情報大学・新潟中央キャンパス)
- (2017年11月9日) 新潟市西区自治協議会 第3部会(新潟市西区役所)
- (2017年11月10日) 中小企業基盤整備機構主催：中心市街地活性化協議会関東ブロック交流会(新潟国際情報大学・新潟中央キャンパス)



学食内の食券販売機にある「TFTランチ・メニュー」の選択スイッチ

飢餓と飽食の格差なくしたい

学食「テーブル・フォー・ツー」活動

途上国の子供に給食代を贈る

発展途上国の飢餓と先進国の肥満・生活習慣病を同時に解

消しようというTFT（テーブル・フォー・ツー）活動。その国際的な貢献運動に賛同した3、4年生が同好会をつくりました。学食内でTFTの特別ヘルシー・メニューを選択すると、1食につき20円が貧困や飢餓などに苦しむ途上国の子供たちの給食1人分として寄付される仕組みです。

同好会の顧問、国際文化学科・山田裕史講師のアドバイスで6月から始めたこのボランティア活動。売店に寄付用の募金箱も置いて、10月末時点ではヘルシー食の選択と募金を合わせて23,631円（1181.55食分）の寄付が集まりました。

高カロリー食を毎日続けたりジャンクフードの食べ過ぎをやめ、健康を考慮した食事に切りかえて、飢餓や貧困に苦しむ途上国の子供た

の穀倉地帯の要とし

た。

練り歩く

情報システム学科3年 穂苅周平

曾根の代官所「献上米行列」



て曾根に代官所が置かれた歴史から、時代衣装で中心街を練り歩くのが献上米行列です。情報システム学科の小林満男教授の薦めで、その歴史的背景を考え、先人の苦勞と努力を体感して見聞を広げようと参加しました。

ちを支援しようと、同好会メンバーは活

動を続けています。

教員の活動（本人申告による）

1) 研究論文・図書

伊村 知子(情報システム学科・准教授)

- ・(2017年) "Perception of the average size of multiple objects in chimpanzees (Pan troglodytes)", Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences, 284 (2017564)
- ・(2017年) 「チンパンジーは、平均の大きさがわかるか?」『科学』岩波書店 87巻 11号 (1002-1003頁)
- ・(2017年) 白井 述・他「市原 茂・阿久津 洋巳・石口 彰福 視覚実験研究ガイドブック」『第6章 視覚研究とその応用 6.2 視覚発達研究の技法』朝倉書店

内田 亨(情報システム学科・教授)

- ・(2017年) Remy Magnier-Watanabe, "Organizational virtuousness and job performance in Japan: does happiness matter?", International Journal of Organizational Analysis Vol.25 Issue:4 (628-646)

白井 健二(情報システム学科・教授)

- ・(October 2017) "Production process retention using a flow analysis in the manufacturing business", International Journal of Innovative Computing, Information and Control Vol.13 No.5 (1491-1507)

藤田 美幸(情報システム学科・准教授)

- ・(2017年) 「デジタルとアナログの融合による地域活性化プラットフォームモデルの開発ー【ふるまちなく】を事例としてー(査読有)」『モバイル学会誌』vol.7 no.1/2 (31-36頁)

2) 学会・研究会・講演等

伊村 知子(情報システム学科・准教授)

- ・(2017年9月9日) 「動物と人間のつながり：動物から学ぶ」にいがた市民大学講座「人間と動物のつながりー動物が私たちに教えてくれることー」(クロスバールにいがた)

- ・(2017年9月20日～22日) 「チンパンジーにおけるアンサンブル知覚 比較認知科学の視点から」日本心理学会第81回大会 (福岡県久留米市)
- ・(2017年9月22日) 「買い物ゲームにおける子どもの価値判断と意思決定に関する行動経済学的研究」第24回中山財団成果発表会 (東京都大崎プライムコアホール)
- ・(2017年10月14日) 「チンパンジーは全体の『平均』を知覚するのか?」第1回犬山鯨鯨脚行行動シンポジウム (Inuyama CetaPin 1) (京都大学霊長類研究所)

内田 亨(情報システム学科・教授)

- ・(2017年9月9日～10日) Remy Magnier-Watanabe, "Organizational Virtuousness and Subjective Well-Being: Differences between France and Japan" 国際戦略経営研究会第10回全国大会 (明治大学)
- ・(2017年11月10日) 朴 珍伶「社員にとって何が幸せにつながるか?」新潟県内の企業に勤務する社員を対象に「イノベーション創研・ワークデザイン協会第4回研究会 (早稲田大学理工学部)」
- ・(2017年11月18日) 朴 珍伶「向社会的行動 (Prosocial Behavior) と良い人間関係の構築ー新潟県の職場内における幸福の増大ー」日本経営品質学会2017年度秋季研究発表大会 (経営研究所)

上西園 武良(情報システム学科・教授)

- ・(2017年10月17日～18日) 中川 結果「スリッパ着用時の歩行の特徴に関する研究」日本人間工学会 東海支部2017研究大会 (中京大学)

佐藤 泰子(国際文化学科・英語講師)

- ・(2017年9月15日～18日) "Poster session The Case Study and Effectiveness of MOOCs in EFL Required Course: A New Challenge for Freshmen at NUIS Focus on a Self-Directed Learning 2" 日本教育工学会 第33回全国大会 (鳥根大学松江キャンパス)
- ・(2017年10月14日～15日) 「EFL授業におけるMOOCsの活用事例とその有効性：大学1年生への取り組み」日本教育メディア学会 第24回年次大会 (茨城大学水戸キャンパス)

佐藤 若菜(国際文化学科・講師)

- ・(2017年9月18日～19日) "Sympathetic Relationships between Miao Mothers and Daughters as Mediated by Ethnic Costumes: Case Studies from Guizhou Province, China (口頭発表)、Panel



脳の3次元画像を紹介

— 長岡会場で近山研究室 —

「福祉・介護・健康フェア2017」（新潟日報社・新潟県社会福祉協議会・新潟市社会福祉協議会の共催）が開催され、11月5日の長岡会場で情報システム学科の近山英輔研究室が、11月19日の新潟会場は河原和好研究室がブースを出展。多くの企業と団体が参加してにぎわいました。

近山研究室は「ホロレンズによる3次元データの可視化体験」を展示。マイクロソフト社のホロレンズ2台を設置して、ヒト脳の3次元MRI（磁気共鳴画像）データの可視化と、ヒト培養細胞の共焦点レーザー顕微鏡3次元データの可視化を行いました。可視化ア

「福祉・介護・健康フェア2017」

実演にぎわう

プリは近山研究室で開発したものです。

河原研究室は「VRによる視覚シミュレーションの展示」。VR（バーチャルリアリティ）と、視覚障がいがある場合の見え方のシミュレーションを実演して大人も子供も大変興味を持ってくれました。

出展して一般市民や福祉・介護に携わる人の感想やアドバイスが得られ、研究を続ける上で有意義な時間となりました。

— 新潟会場で河原研究室 —

「視覚障がい」を体感

人事担当者や教職員が名刺交換をして交流しました



企業懇談会

過去最高 311社

採用計画など情報交換

平成29年度「企業懇談会」が11月15日、ANAクラウンプラザホテル新潟で開かれ、企業数は過去最高の311社に増え、各社の就職担当、人事担当から478人と本学から理事長と学長、教職員が出席して採用計画など情報交換をしました。

冒頭で平山征夫学長は「人生を乗り切る基礎の勉学、経験を積み、引き出しを増やすよう学生に話しています。社会人として彼らが成長でき

るよう企業の方々にご指導をお願いします」とあいさつしました。
講演会では、偏差値30だった生徒を有名私大に現役合格させた学習塾の先生、坪田信貴氏が「部下をやる気にさせる信頼関係の作り方」と題して「相手とまじめに向き合い、理解し合える関係をつくり、明確な目標でモチベーションを上げることが大切」と話しました。

懇親会は、星野理事長が「本学の卒業生数も約6,000人となり県内外で活躍しています」と大学教育で人材育成が着実に伸びている実績を説明。キャリア支援委員長の内田亨教授は「学生を巻き込んだ共同研究ができれば、企業と学生双方にメリットも生まれる」と話し、懇談会を通じた各企業と産官学連携、共同研究の機会も探ってほしいと呼びかけました。（キャリア支援課長 西脇茂雄

LED光送信に歓声！

e-ネットキャラバンと光通信を学ぶ教室

新潟国際情報大学と信越情報通信懇談会、総務省信越総合通信局は、スマートフォンなどブロードバンドのより安全な使用の啓蒙活動として、e-ネットキャラバンと光通信を学ぶ教室を7月21日に高田高校で、10月30日は新潟第一高校Ⅱ写真Ⅱで実施しました。

近藤研究室は光通信を学ぶ教室を担当し、高田高校では1年生の理数科クラス40人、新潟第一高校



では1年生の希望者22人が製作と実験をしました。
両校とも研究室の学生がアシスタントとなり、半田付けをせずに電子回路が組めるブレッドボードでLEDによる光送信機とフォトトランジスタによる光受信機を製作しました。

スマートフォンの音楽をLEDの赤色光や赤外光信号に変えて受信機に伝達し、スピーカーから音楽が流れると、生徒たちから歓声があがりました。

（情報システム学科 教授 近藤 進

韓国 光云大から初の留学生

昨春から1年間、韓国の光云大学より本学では初めての交換留学生を迎えています。帰国を3月にひかえた2人に、新潟での勉強やキャンパスライフなど留学中の感想を寄せてもらいました。

クワン ミンジ 権 玫池さん 新たな分野を学んだ

報大に留学しました。

最初は日本語がほとんどわからず生活に慣れるのが大変でしたが、春はお花見をしたり夏は花火大会に行ったり、休日は友人たちと一緒に食事や映画を楽しんだりして、た



紅羽祭のサークル活動で楽しくポーズ

キム ヨンジュ
金 妍珠さん

喜び感じ、日本語上達

新潟国際情報大学は、新潟国際情報大学に入学して1年が経ちました。最初は日本語がほとんどわからず生活に慣れるのが大変でしたが、春はお花見をしたり夏は花火大会に行ったり、休日は友人たちと一緒に食事や映画を楽しんだりして、た

平成30年度推薦入試

受験者数は 昨年を上回る

初めての入学試験となりましたが、昨年度と比べて出願が多く、人気度の上昇がうかがえました。

平成30年度入試が11月19日の推薦入試を皮切りにスタートしました。今年4月に経営情報学部を新設し2学部3学科に再編される初



小論文の課題に挑む受験生

「参加民主主義 育てよう」

国際文化学科 佐々木寛教授が出版



国際文化学科の佐々木寛教授が「市民政治」の育てかた―新潟が吹かせたデモクラシーの風―と題した本を出版しました。2015年に立ち上げた「市民連合@新潟」の代表として自らが関わった2016年の参

議院選挙と新潟県知事選挙での経験に、市民が責任を持つて参加する「参加民主主義」を育てる必要性について、市民や学生にもわかりや

平成30年度 一般入試日程

募集学部 国際学部 国際文化学科 経営情報学部 経営学科・情報システム学科

入試区分	出願期間 ※期間内必着	試験日	試験地	試験実施教科・科目	合格発表日	入学手続期間
前期	平成30年 1月 5日(金) 1月22日(月)	平成30年 2月 2日(金)	新潟 新潟県 新潟市	国語 数学 外国語 2科目以上選択	平成30年 2月 8日(木)	平成30年 2月 8日(木) 2月15日(木)
大学入試 センター 試験利用	平成30年 1月22日(月) 2月13日(火)	平成30年1月 13日(土)、14日(日) 大学入試センター試験を受験していること		各学部の 利用教科・科目の 中から 2科目以上選択	平成30年 2月22日(木)	平成30年 2月22日(木) 3月 2日(金)
後期	平成30年 2月23日(金) 3月 8日(木)	平成30年 3月13日(火)	新潟	国語 数学 外国語 2科目以上選択	平成30年 3月16日(金)	平成30年 3月16日(金) 3月23日(金)

入試のポイント

一般入試(前期・後期)で
第3志願制を導入!!

第1志望の学部・学科が合格にならなかった場合には第3志望までの学部・学科で合否判定を行います。

一般入試(前期)で
学費給付奨学生を
採用!!

一般入試(前期)の試験結果から、成績上位者に、年間授業料の半額を給付します。奨学金試験を受ける必要も、事前に申請する必要もありません。
※進級年度ごとに審査あり。

給付額	給付対象
年間授業料の半額	経営情報学部 経営学科 上位3名
	情報システム学科 上位2名
	国際学部 国際文化学科 上位3名

詳細は「平成30年度学生募集要項」または本学ウェブサイト(<http://www.nuis.ac.jp/>)でご確認ください。

日中友好 日本青年団訪中

省政府を表敬 学生と交流

中華人民共和国駐新潟総領事館が主催する日中友好日本青年訪中団の一員として10月20日から27日まで、大連、瀋陽、ハルビン、北京の4都市で省政府へ表敬訪問や進出している日系企業の視察、大学との交流をしてきました。

大連外語大生の アピールに驚き



遼寧省政府の代表を表敬訪問した様子

に触れて相互理解を深め、日中友好の担い手を育てることを目的とした訪中ツアーで、私は国家間の友好活動に関心があり、将来は国際協力の分野で働くことも考えていることから参加しました。

1週間の主な内容は、地方政府への表敬訪問、日系企業の視察、中国の歴史や文化の見学と体験でした。

中でも、大連外国語大学の学生と交流した際、外語大の学生たちが自分の考えを日本語で堂々と力強く話す姿が特に印象に残っていました。

民間外交ともいえる重要な交流の場に同席できるなど非常に多くの貴重な機会に立ち合え、すてきな人々に出会えたことは、とても濃密でぜいたくなものでした。

(国際文化学科3年 川島圭貴)

東京、シンガポール県内企業戦略

商談の現場を学ぶ

学生がNICOに同行調査



シンガポールの商談会場で

藤田研究室は9月、10月、東京とシンガポールで新潟県産品の販路を開拓する県内企業の市場戦略について同行調査を行いました。

9月8日は池袋サンシャイン

シテイで公益財団法人にいがた産業創造機構(NICO)が主催した「うまさぎつしり新潟・食の大商談会」(県内企業約110社が出展)で8人が同行調査をしました。

10月26日〜28日はNICOに2人同行し、シンガポールにおいて約300社が参加したアジア最大の食のイベント「フードジャパン 2017」で県内11社の出展ブース設営や商品紹介を手伝いました。同時期に開催された県主催「食の宣伝会」では新潟の食のPR、またASEANでの市場戦略や日本の消費者行動との比較なども行いました。

学生たちは「海外との商談や企業間取引の現場を体験でき視野が広がりました」と感想を述べていました。

(情報システム学科 准教授 藤田美幸)



ファンサービスで子供と握手する照強関

伊勢ヶ濱部屋を招き

学校の森・記念植樹

大相撲・伊勢ヶ濱部屋(第63代横綱旭富士)

ケ濱親方(第63代横綱旭富士) 交流会」を開きました。

22日、本校みずき

野キャンパスに招

弥彦村で合宿中の伊勢ヶ濱親方はじめ元横綱の日馬富士関(11月に引退を表明)や安美錦関、照強関の関取衆と2人の若手力士、仲立ちをしてくれた一般社団法人どすこい越後の高橋道映理事長をお迎えし、桐の木5本を伊勢ヶ濱親方と関取、本学の星野理事長、平山学長、佐々木専務理事らで植樹しました。

その後、学生食堂で相撲ファンと関取衆のふれあいイベントを開き、豪華プレゼントが当たる抽選会や写真撮影会で大いに盛り上がりました。